

始業式の話

改めて、みなさん、おはようございます。

1年前の平成28年度の始業にあたって、学習以外に3つお願いをしました。平成29年度の始業に当たり、改めてお願いします。

1つ目は、「目標を持ってください。」

2つ目は、「あいさつ、みだしなみ、マナーをしっかりとってください。」「欠席・遅刻・早退を減らしてください。」

3つ目は、学習以外に「部活動や生徒会活動、ボランティア活動などに取り組んでください。」というお願いです。

どれもなぜ大切なのかを説明する必要のないことばかりです。

さて、最近、日本の子どもの6人に一人は貧困と言われ、また、貧困の連鎖という言葉も話題になりました。なぜ“連鎖”なのか、それは目標をしっかりと持てないことが原因の一つではないかと思います。それぞれの置かれた環境の中で目にする、耳にすることはある幅の中に納まってしまいます。周りのレベルを超える夢や目標を持つことは具体性に欠けます。よく「10年後、20年後の自分の生活を想像して、そこに向かって頑張ろう」と言ったりしますが、10年後、20年後を想像することは決して簡単なことではありません。めざすもの、めざす状況がどんなものなのか、見たことがないので具体的に思い描けないのです。結局、はっきりした目標が持てず、何をどう頑張ればよいのか曖昧なまま、日々の生活に流されてしまうのだと思います。

不破高校にはそのためにFSTの時間があります。この時間を有効に活用して、しっかりとした目標を持ってください。また、さきほどの2つ目と3つ目のお願いは、具体的でどんな目標を持つ人にも必要なことです。まず、この2つを頑張ってください。

最後に、iPS細胞でノーベル賞を取られた山中伸弥先生の話。

ある講演会で山中先生が、「好きな言葉は？」と尋ねられて、「高くジャンプしたかったら、深く屈みなさい。」と答えられたそうです。私もこの言葉は昔から知っていました。みなさんは、聞いたことはありませんか？そして、この言葉の意味するところが分かりますか？

誰だって突っ立った状態からは飛び上がりません、飛び上がるためにはまず屈んでから飛び上がります。すなわち、成果を上げるためには、その準備段階として我慢して力を蓄える、耐える時期が必要だ、ということですね。しかも、ただ飛び上がるのではなく、高く飛び上がる、そのためには、ただ屈むのではなく、深く屈まなければならない、と言っています。より大きな成果を得るためには、相応した努力や我慢が必要だということです。

以上、今年度の君たちの頑張りに期待しています。